

令和8年度 富山高等学校アクションプラン -3-	
重点項目	進路支援
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導
現 状	1 本校では「しゅうかん(週間・習慣)」課題を生徒に課しているが、進路意識の希薄さから課題に対して受動的な捉え方をする生徒が年々増加しており、その結果、提出率の低下が見られる。 2 本校では、生徒の進路意識の向上および学習意欲の喚起を目的として、折に触れて各種の進路行事を実施している。加えて、外部講師を招いた進路講演会を全学年で実施している。これらの取組により意欲や目的意識を高める生徒がいる一方で、依然として進路意識の向上に結びついていない生徒も見受けられる。
達成目標	1 「自ら学ぶ集団」の形成を目指した進路指導の実現 ①課題の量や取組方法について教員が一層の工夫を凝らし、生徒が自主的に学習へ向かう姿勢を育成する。 ②「10の力」のうちの「主体的行動」の段階評価の平均値を3.0以上とする。 2 進路目標(志望校)の明確化 ①各種進路行事や外部講師による進路講演会等を通じて、「10の力」のうちの「進路意識」の段階評価の平均値を3.0以上とする。 ②第2学年修了時まで、目標とする志望校を具体的に決定している状態を目指す。
方 策	1 教員側が各教科の指導において、いつどのような課題を与えてどんな力をつけるかを計画的に工夫し、その意図を生徒に明確に理解させることで、自主的な課題への取組を促す。 2 学年集会や面談等の機会を活用し、進路について主体的に考察を深める場とする。 3 高い進路目標を共有する集団を、学習会や大学志望別集会等を通じて早期に形成し、相互に切磋琢磨できる環境を、学校生活のあらゆる場面において醸成する。 4 学習支援講座や各種講演会、「進路のしおり」等を通じて、生徒にとって必要性・有用性の高い情報を適切に提供できるよう努める。 5 社会人や大学生を招いたキャリア教育を通じて、生徒が主体的に「学びに向かう力」を育むことができるよう支援する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和8年度 富山高等学校アクションプラン-4-	
重点項目	特別活動の充実
重点課題	非認知能力「10の力」を高める特別活動
現 状	富山高校は、伝統的に教科指導にとどまらず、特別活動が活発に展開されてきた学校である。令和5年度には生徒会則の見直しが行われ、生徒主体の組織運営をより重視した体制へと整備された。また、体育大会・文化活動発表会・予餞会等の学校行事において生徒の意見を可能な限り反映させる取組や、生徒と教員が対話を重ねながら生徒心得の見直しを行うなど、その理念は今日まで着実に継承されている。 こうした流れを踏まえつつ、令和6年度より明示された「10の力」のうちの「主体的行動」、「規範意識」、「対話」、「協働」、「創造性」、「慎重敢為」の6項目の一層の伸長を図り、学校目標である「人間の発展的将来に貢献する人間の育成」の実現に資する教育環境の充実を図ることが、今年度以降の重要な課題であると考えられる。
達成目標	1 「特色のあるホームルーム活動」を対話的に計画し、実施したクラスの割合を100%とする。 2 「10の力」のうちの「体的行動」、「規範意識」、「対話」、「協働」、「創造性」、「慎重敢為」の各項目について、その伸長を実感する生徒が増えること。
方 策	1 前年度のホームルーム活動の成果と課題を踏まえ、それらを基にした適切な働きかけや問いかけを行う。 2-1 改訂された生徒会則に基づく生徒会運営が円滑に機能するよう支援する。 2-2 また、文化活動発表会における普通科クラス展示について、「総合的な探究の時間」との学びの接続を模索し、内容の一層の充実を図る。 3 これらの取組の前提として、学校目標および「10の力」について、生徒との十分な共有を図るとともに、教職員自身も生徒と共にその伸長に努める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)